

第6次総合計画策定に向けた取り組みの整理

1. これまでの分析と意見集約

(1) 事前分析結果

(人口動態から見る本市の現状)

河内長野市は昭和40～50年代を中心に民間開発を誘導し急激な人口増加を図りました。

また、昭和63年以降において市街化調整区域の開発抑制へと180度方針転換を図りました。

このまちづくりが大きく影響し、平成12年をピークに、社会減による急激な人口減少が進み、その後自然減に移行し、大阪府下で最も人口減少・少子高齢化が進行しているまちとなりましたが、近年空き家の増加に伴い7年連続で0～14歳が転入超過となるなど、新たに転入傾向を確認できました。

一部エリアでは人口増加に転じるまちが生じているなど、これまでとは異なる傾向が生まれています。

(第6次総合計画策定において考慮すべき結果)

- このような状況下において、本市には「地盤が強い」「犯罪発生率が低い」「公園が多い」「文化財が多い」「自然が多い」といった、多くの住民が転入当時に求めた魅力を今も変わらず持ち続けていることから、「河内長野市は魅力がなくなったことにより人口減少・少子高齢化が進んだわけではなく、まちづくりの構造上、人口減少・少子高齢化が必然的に生じている」と今後のまちづくりにおいては評価すべきです。
- 社会動態による転出が減少し、転入が増加傾向に転じている現在のタイミングでは子育て世代の人口の底を迎えており、特に30代前半の女性の人口が少ない上に、有配偶率・有配偶出生率が低いために30代女性の出生率が極端に低いことが本市の最大の課題となります。
一方で、出生率は社会動態における移入率に比例することを確認しています。
- 本計画期間では、本市のこれまでのまちづくりと現状を鑑み、新たな開発を誘導するのではなく、今後増加が見込める空き家への子育て世代の転入による社会増を目指し、居住者が循環することによる「まちの持続性」の向上を目指すべきであると考察しました。

このような状況を踏まえ、本市では今まさにまちづくりのターニングポイントを迎えていると捉え、そのターニングポイントにおいて描くべき将来像を第6次総合計画基本構想に反映します。

(2) 意見集約のまとめ

【アンケート 一般・中学生】

●市の強み・魅力

自然の豊かさ 人の良さ 安全・安心 歴史の深さ

●高めてほしい強み・弱み

安心して生活ができる環境 教育・子育ての充実

自然の豊かさ 都市へのアクセス

●ワクワクするまち

公園・文化施設の充実 交流・つながり 若者の増加

経済の発展 安全・安心 お祭りやイベント

【市民ワークショップ】

●日本一を目指したいところ

生活の豊かさや気持ちよさ 人の温かさ 安全・安心

農業・食の魅力 行政と市民のつながり

●日本一にするための施策

施設・活動場所・スポットの充実 歴史の活用 IT・DXによる利便性向上

新しいコミュニティ 魅力を活かした教育（給食含む） 住環境の向上

自然を生かしたレクリエーション つながり 移動支援 駅周辺の活性化

【地域ワークショップ】

●地域で取り組みたいこと

賑わい創出 地域資源の活用 デジタル化 担い手づくり

子育て支援 防災・防犯活動の創出

●具体的取り組み

高野街道・スポーツ施設・道の駅など地域にある施設を有効活用した活性化

地域の伝統（だんじり・獅子舞・神楽など）の継承 祭り・イベントの実施

魅力発信 自治会の活性化 交通利便性の向上

2. 第6次総合計画基本構想の要素（案）

（1）これまでのまちづくりと基本構想のキーコンセプト

①これまでのまちづくり

- 開発誘導⇒人口増加⇒社会減⇒自然減⇒（空き家の増加）転入傾向有り
- 河内長野市の人口減少・少子高齢化は魅力がなくなったために生じたものではなく、まちづくりの構造上生じたこと（魅力は守り育ててきた）
⇒これからの10年は河内長野市のターニングポイント

②基本構想のキーコンセプト

②－1 河内長野市が変わらない約束（本市が潜在的に持つ魅力の認識と向上）

●安心（共生社会 防犯・防災 街並み・景観 衛生 健康医療 福祉 青少年健全育成 子育て）

安心感のある暮らしを守る

（物理的・心理的安心を満たす 子育て世代・高齢者世代の不安解消）

生活におけるあらゆる場面で感じる安心感の創出

●自然（環境共生 街並み・景観 観光 産業）

みどり 自然体 育てていく（大阪らしくない緑 まち全体が呼吸 ありのまま）

農業・食を含む自然を資源としたイノベーションによるまちの魅力向上

②－2. ながく大切にするらしさ（これまで培ってきたものの認識と継承・発展）

●つながり（防犯・防災 都市デザイン シティ・プロモーション まちづくり スポーツ 観光・産業）

こちよいつながり

（人與人 人と自然 過去・現在・未来）

新しいコミュニティのあり方へ対応した心地よいつながりの創出

●1000年／継承（歴史・文化 街並み・景観 観光 産業 まちづくり）

1000年続く安心・つながり

（景色・普段の生活・環境）

これまでの市民・市が培った歴史や文化・生活環境を生かし・つなぐ

②－３．つながる未来（まちへの愛着 まちの成長・変化 市民・事業者の成長）

●愛着（シティ・プロモーション 共生社会 環境共生 防犯・防災 街並み・景観 都市デザイン 産業・観光 子育て

学校・社会教育 歴史・文化）

好き／愛着

（河内長野市が好きになる 戻ってくる）

シビックプライドの醸成 定着・転入促進

●成長／変化し続ける（共生社会 スポーツ 子育て 学校教育 社会教育 行政運営 財源確保）

（環境共生 街並み・景観 都市デザイン 産業 観光）

まち／市民／事業者

（自己実現が叶う）

（市民や職員が未来にワクワクする）

温故知新による時代に応じたまちの成長を生む

子どもから高齢者まで企業も含め個々に応じた成長を実現する

３．河内長野市の将来に向けてありたい姿

※これまでの施策分野に応じたありたい姿を描くよりも、一つのありたい姿に多様な分野・意味を含め、

ありたい姿を基本構想にしっかり描いて、基本計画でその実現に必要な方策を具体化する。

●だれもがインクルーシブな暮らしの中で助け合い生きがいを持ち生活ができる（安心 つながり 愛着）

●河内長野市の資源を生かした強くて美しいまちで、安全安心な生活ができる（安心・自然・愛着）

●森・空気・水・農地を活かした魅力ある環境・景観・食を通じた豊かな生活ができる

（安心 自然 愛着 つながり）

●市民の多様で健康的な活動が増え、まちの賑わいを感じることができる（安心 つながり 愛着）

●たくさんの人が河内長野市を訪れ産業が活性化し、市民もそれを感じることができる（つながり 成長）

●歴史や文化にふれ豊かな生活ができる（1000年 愛着）

●伝統・文化を守り地域を誇る市民が増える（つながり 1000年 愛着）

●市民がなりたい自分を見つけ実現する。成長する。（つながり 成長）

●本市ならではの教育・子育て・子どもの体験があり、すべての子どもの夢をかなえる（つながり 成長）

●市内企業が成長するとともに、企業に選ばれるまちとなり、雇用が増えて定住が進む（成長 変化）